



ユーザーズガイド

| | |
|------------------------------------------|----|
| 導入／使用の手引き..... | 4 |
| ご注意 | 6 |
| 1. はじめに..... | 7 |
| 2. 特徴 | 7 |
| 3. 動作環境 | 8 |
| 4. 用語説明 | 9 |
| 5. インストール | 11 |
| 5-1 インストールの前に..... | 11 |
| 5-1-1 動作環境のご注意..... | 11 |
| 5-1-2 ご使用上のご注意 | 12 |
| 5-1-3 インストール前のご注意..... | 12 |
| 5-2 インストール | 13 |
| 5-3 登録..... | 18 |
| 5-3-1 Windowsタスクバーにアイコンを表示させている場合..... | 18 |
| 5-3-2 Windowsタスクバーにアイコンを表示させていない場合 | 19 |
| 6. Windowsでの操作..... | 20 |
| 6-1 情報..... | 21 |
| 6-2 一時保留 | 22 |
| 6-3 基準レイヤーに修復..... | 24 |
| 6-4 更新保存（基準レイヤーの更新）..... | 25 |
| 6-5 保護一時解除 | 26 |
| 6-5-1 保護一時解除..... | 26 |
| 6-5-2 保護一時解除の終了 | 28 |
| 6-6 設定..... | 29 |
| 起動時の保護モード..... | 29 |
| BIOS設定の保護モード..... | 30 |
| アラーム設定 | 30 |
| パスワード変更..... | 30 |
| 6-7 修復テーブルのデフラグ..... | 31 |

| | |
|-------------------------------------------|----|
| 6-8 Windows上からのアンインストール..... | 32 |
| 6-8-1 リカバリー・フラッシュ・シングル操作画面からのアンインストール ... | 32 |
| 6-8-2 コントロールパネルからのアンインストール | 33 |
| 6-8-3 アンインストール方法の比較..... | 34 |
| 7. DOS上での操作 | 35 |
| 7-1 一時保留 | 36 |
| 7-2 修復..... | 37 |
| 7-3 修復テーブルのデフラグ | 38 |
| 7-4 更新保存 | 39 |
| 7-5 保護一時解除 | 40 |
| 7-5-1 保護一時解除..... | 40 |
| 7-5-2 保護一時解除の終了 | 42 |
| 7-6 設定 | 43 |
| 起動時の保護モード..... | 44 |
| パスワード変更..... | 44 |
| BIOS設定の変更検出..... | 44 |
| BIOS設定の自動修復..... | 45 |
| 7-7 DOS上からのアンインストール..... | 46 |
| 8. その他 | 47 |
| 8-1 情報..... | 47 |
| 8-2 ヘルプ | 47 |
| Q & A..... | 48 |

導入／使用の手引き

1

インストールと登録

PC の環境を整えてからインストールし、
シリアル番号を登録してください。

- 5 インストール
- ※5-1 注意事項要確認
- 5-3 登録

※ 「Windows 画面右下のタスクトレイにアイコンを表示」しない設定で
インストールした場合、メニュー操作は全て DOS 上での操作となります。
ご注意ください。

2

設定確認

保護設定を確認してください。起動時の保護モードが
「自動修復」の場合、PC を再起動するたびに「修復」さ
れます

- 6 メイン画面表示
- 6-6 設定(起動時の保護モード)

★ Windows Update、新アプリインストール等

PC の環境を更新する場合は、起動時の保護モードを「保留」にしてから
更新作業を行い、更新作業終了後新しい PC 環境を保存してください。

- 6-6 設定(起動時の保護モード)
- 6-4 更新保存

★ OS の再インストール、SP 更新等

OS の再インストールや、サービスパックの更新作業は、リカバリーフラッシュをアンインストールしてから行ってください。

→ 5-1-2 ご使用上のご注意

→ 6-8 アンインストール

→ 対応 OS バージョン情報

<http://www.gfj.co.jp/annai>

★ パソコンがなんかおかしい

→ 6-3 基準レイヤーに修復

※「修復」を実行するか、「6-6 設定」の起動時の保護モードが「自動修復」の場合は、「再起動」をして修復を実行することもできます。

★ Windows が起動しなくなった

ウイルス感染や何かの不具合で Windows が起動しなくなった場合は、DOS 上のメニュー画面での「修復」をお試し下さい。

→ 7 DOS 上のメイン画面の呼び出し方

→ 7-2 修復（DOS 上での修復）

ご注意

- ・ ご使用の前に本製品の使用許諾書をお読みください。
- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。
- ・ その他記載されている製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- ・ 本製品の内容、および本書の記載事項は、改良のため予告なく変更することがあります。
- ・ 本書の内容や本製品について許可なく頒布、複製、転載することは禁じられています。
- ・ 本製品および本書の一部または全部を第三者に譲渡、貸与、内容の変更をすることはできません。
- ・ 本製品の使用に起因するいかなる事態に対しても、弊社は一切の責任を負いません。
- ・ 本製品はすべてのPC機種への対応の保証はできません。

1. はじめに

この度は「リカバリー・フラッシュ・シングル」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「リカバリー・フラッシュ・シングル」はあらゆる操作ミス、いたずら、ウィルス感染などによるハードディスクデータの破損、削除からあなたのコンピュータを保護し、瞬時に修復します。「リカバリー・フラッシュ・シングル」は、システム修復に浪費される時間を省く、安全で効率的なりカバリーソフトです。本書をよくお読みの上ご活用ください。

2. 特徴

瞬間修復

「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールしておけば、アプリケーションの不具合や最新のウィルスによる攻撃にあっても、再起動するだけでシステムを正常な状態に戻すことができます。

インターネット利用中におきる様々な障害を回避

いつの間にかアドウェアやスパイウェアが PC にインストールされ、強引に広告を見せようとしたり、個人情報収集されたり。さらには異常画面の連続フラッシュや WEB ブラウザの設定変更など、様々な障害もPCを再起動するだけで解消します。

BIOS 設定変更の保護

BIOS セッティングにおける操作ミスや修正も、システム・リブート時にオリジナルの構成を検索し修復することができます。

HDD モニタリング

いつでも最新のハードディスク使用スペースを表示することが可能です。また「リカバリー・フラッシュ・シングル」がバックアップのために使用するスペースが不足してきた場合は、ユーザーに自動で通知することができます。

ノートパソコンでも利用可能

ソフトウェアだけで稼動しますので、ハードウェアの取り付けも必要なく、ノートパソコンでもご利用になれます。

簡単操作

操作はとてもシンプルで、Windows 上からも DOS 上からも操作することができます。また DOS 上での操作にもマウスが使用できます。

最小の HDD スペース占有

ハードディスク全体容量のわずか 0.05%です。

3. 動作環境

<ハードウェア>

| | |
|---------|-----------------------------|
| 対応パソコン | : IBM PC/AT 互換機 |
| CPU | : PentiumIII 以上のインテル互換 CPU |
| メモリ | : 128MB 以上 |
| HDD 容量 | : 8GB 以上 |
| HDD タイプ | : IDE/SCSI/シリアル ATA |
| サウンドカード | : オプション |
| その他 | : CD-ROMドライブ及びフロッピーディスクドライブ |

<ソフトウェア>

| | |
|-------|---------------------------------------------------------|
| 対応 OS | : Windows2000 Server/Professional |
| | : Windows2003 Server |
| | : WindowsXP Professional/Home Edition (32bit 版、64bit 版) |
| | : Windows Vista (32bit 版) |
| | : Windows7 (32bit、64bit) |

※ 対応 OS の最新情報については、ホームページをご確認ください。

<http://www.gfj.co.jp/annai.htm>

4. 用語説明

1. 修復

コンピュータを起動するたびに、元の状態に戻ります。
ユーザーが保護パーティションに追加、作成したデータは、クリアされます。
元の状態とは、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールした時点の保護領域の状態、もしくは選択したレイヤーの状態を指します。

2. 保留

このコマンドを実行すると、コンピュータを再起動しても、「修復」のようにユーザーが操作した内容はクリアされず、前回コンピュータを終了した時の状態で、起動します。新しいアプリケーションをインストールする場合や、Windows アップデートをする場合に活用することができます。

3. 保護一時解除

保護一時解除を実行すると、保護していた基準レイヤーは削除されます。その後、PC 環境の更新等を行い、保護一時解除を終了すると、その新しい状態を基準レイヤー(No.0)にすることができますが、下記にご注意ください。



※保護一時解除中は、リカバリー・フラッシュ・シングルをアンインストールしている時と同じ状態です。保護一時解除中に、ウィルスに感染したり、何かの原因でデータが破損しても、「修復」することはできません。保護一時解除中の操作による PC の不具合は、サポート対象外となりますので予めご了承ください。

※上記理由から、基準レイヤー更新時は、「保留」機能(7-6「設定」と「6-4 更新保存」機能のご使用をお勧めいたします。

4. 保存

コンピュータを再起動させて、現在の保護領域の状態をレイヤーとして保存するコマンドのことです。

5. 保護パーティション

「リカバリー・フラッシュ・シングル」による「修復」および「保留」のコマンドが実行できるパーティションです。

6. 非復元フォルダ

保護パーティション内で、「リカバリー・フラッシュ・シングル」による「修復」の対象外とするフォルダです。

7. レイヤー

保存された保護パーティションの状態のことです。「リカバリー・フラッシュ・シングル」では、インストール時に自動的に基準レイヤーが作成され、後から更新可能です。

5. インストール

5-1 インストールの前に

動作環境にお客様のコンピュータが対応しているかご確認ください。

このソフトウェアを運用した結果の損害等については、弊社では一切その責任を負いません。御了承下さい。

5-1-1 動作環境のご注意

1. ハードディスクが複数台接続されている場合、保護出来るのはプライマリマスタのハードディスクのみ保護します。2 台目以降は保護できません。
2. MBR を書き換えるパーティション管理ソフトや他の復元・リカバリーソフトなどとの併用はできません。
3. 下記のような Microsoft の機能も**無効の状態**でご使用ください。
 1. 「システムの復元」機能
(コントロールパネル・システム・システムの復元)
 2. 電源オプションの「休止」機能
(コントロールパネル・画面・スクリーンセーバー「電源」・休止状態)
4. 対応ファイルシステムは FAT16、FAT32、NTFS です。
5. Windows 系以外の OS (Linux、Unix など) は保護の対象外です。
6. 対応ハードディスクは IDE、SCSI、シリアル ATA です。
※シリアル ATA の場合、単独での使用のみの対応です。他の規格のドライブと混在では使用できません。
7. RAID 環境、ダブルスペースなどの圧縮ディスク環境(参考: Cドライブのプロパティ「ドライブを圧縮してディスク領域を空ける」)にチェックが入っている状態等)では使用できません。
8. デュアルCPU等の環境(物理的に CPU そのものを 2 つ以上搭載する状態)では使用できません。一つの CPU パッケージ内に複数の CPU コアを封入した「マルチコア」(デュアルコアやクアッドコアなど)を1つだけ搭載した環境では使用可能です。
9. NEC の「PC98-01 シリーズ」、「PC98-NX シリーズ」には対応していません。
10. 拡張 IDE カードに接続したハードディスクは保護できません。
11. ハードディスクが物理的に破損した場合は、修復できません。

5-1-2 ご使用上のご注意

1. 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールした状態で、システムのバックアップソフトでバックアップを行うことはできません。
2. インストール後の保護環境下で、デフラグは行わないで下さい。
3. 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールした状態で、OS を再インストールしないでください。
4. 上記の場合や、各 OS のサービスパックを更新する際も、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールしてから実行してください。
5. WindowsUpdate を行う場合は、起動時の保護モードを「保留」にすることをお勧めいたします。（「7-6 保護設定」参照）
6. 対応 OS、バージョン情報については下記 URL をご確認ください。

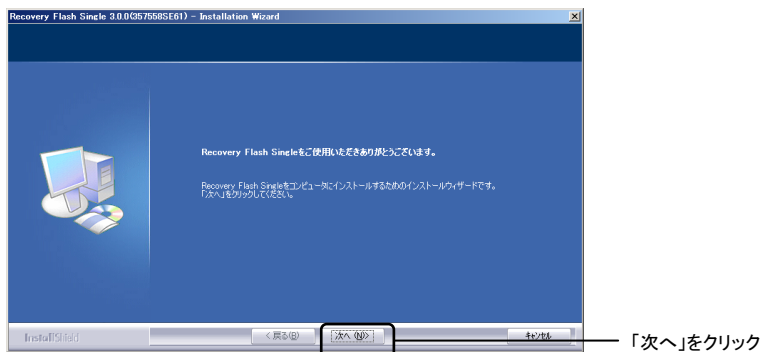
<http://www.gfj.co.jp/annai.htm>

5-1-3 インストール前のご注意

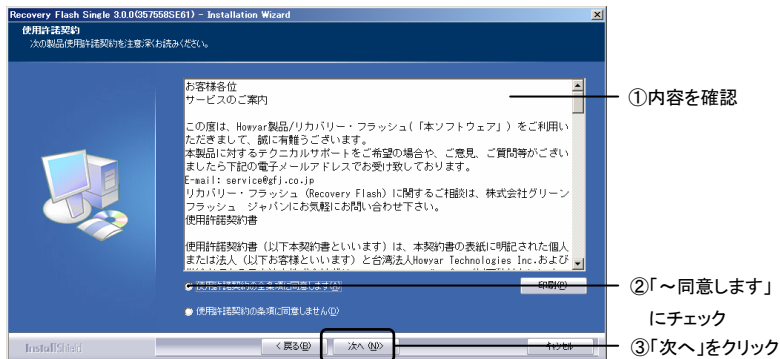
1. ウィルスチェックソフトでウィルスを検出・排除し、チェックディスク、デフラグを実行してハードディスクの最適化を行ってください。
2. BIOS の設定画面を呼び出し、保護しようとするハードディスクのパラメータの設定が正しいかご確認ください。また「Virus Warning」を「Disable」に設定してください。
3. ハードディスクが 1 台の場合は、データ保存用として C ドライブの他に D ドライブも作成しておくことをお勧めします。インストールの際に、C ドライブを「保護」、D ドライブを「未保護」に設定し、今後作成したドキュメント等の必要なファイルを D ドライブに保存すれば、ファイルは修復（削除）されません。
4. 「マイドキュメント」などのフォルダに保存されるデータ・ファイルを、修復機能により削除されないようにしたい場合は、予めデフォルトパスを未保護の場所（上記での例では D ドライブ）に変更してください。
5. ウィルスチェックソフトとリカバリーフラッシュが衝突しないよう、ウィルスチェックソフトをあらかじめ停止するかアンインストールしてください。
6. 安全上の理由から全てのデータのバックアップを、別のメディア等に分けて保存することをお勧めします。また再インストールが必要な場合に備え、アプリケーションと OS のすべてのコピーを持っていることを確かめて下さい。
7. Administrator(管理者権限)のみ利用可能です。インストール・起動時には Administrator(管理者権限)でログインしてください。また、ドメイン環境下でも Administrator(管理者権限)でログインする必要があります。

5-2 インストール

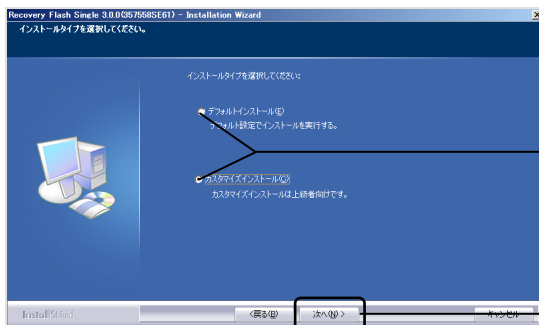
1. CDドライブに「リカバリー・フラッシュ・シングル」のインストール CD をセットし「インストール」を実行します。
2. 次の画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



3. 使用許諾契約書をお読みの上「～同意します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックしてください。



4. 「デフォルトインストール」と「カスタマイズインストール」のいずれかを選択して、「次へ」をクリックしてください。それぞれの説明は以下の通りです。



①どちらかを選択してください

②「次へ」をクリック

デフォルトインストール:

デフォルトインストールを選択すると、初期値の設定は以下のようになります。

保護領域: システムパーティション(Cドライブ)のみ

起動時の保護モード: 自動修復

BIOS 設定の保護モード: 未保護

パスワード: 設定なし

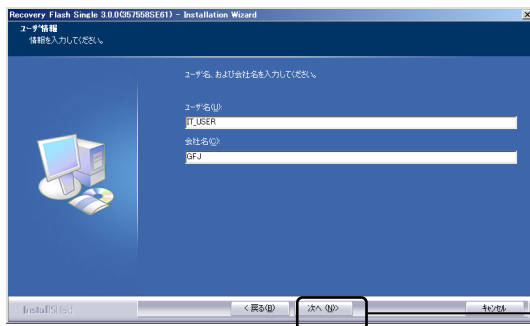
タスクバーにアイコンを表示: 表示

カスタマイズインストール:

上記の設定を自分で行えます。

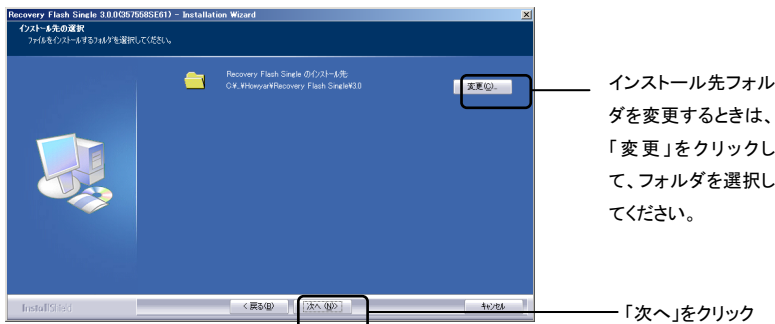
5. 「カスタマイズインストール」を選択した場合、ユーザー名と会社(学校)名を入力し、「次へ」をクリックしてください。

「デフォルトインストール」を選択した場合は、10に進んでください。



「次へ」をクリック

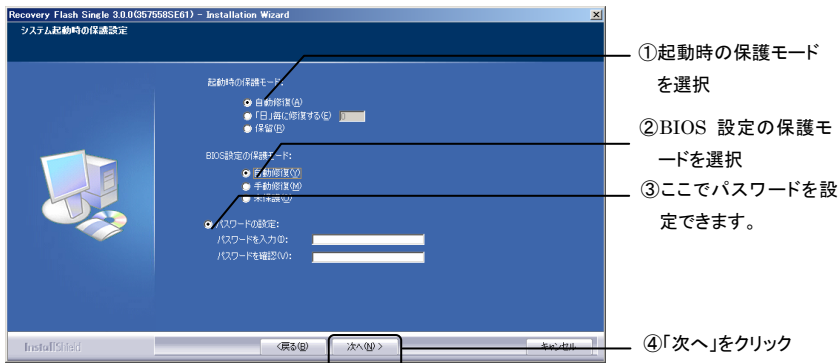
6. インストール先のフォルダを選択して、「次へ」をクリックしてください。



7. 保護するパーティションを選択して、「次へ」をクリックしてください。



8. 保護モードを設定します。この設定は、インストール後にも変更することが可能です。パスワードは、半角英数字で最大 8 文字です。



各保護モードの説明は次の通りです。

○起動時の保護モード:

| | |
|------------|-------------------------------------------|
| 自動修復: | コンピュータを再起動するたび、保留したデータは全て削除されて、元の状態に戻ります。 |
| 「日」毎に修復する: | 修復する間隔を設定できます。 |
| 保留: | コンピュータを再起動しても自動で修復せず、最後に終了した時の状態で起動します。 |

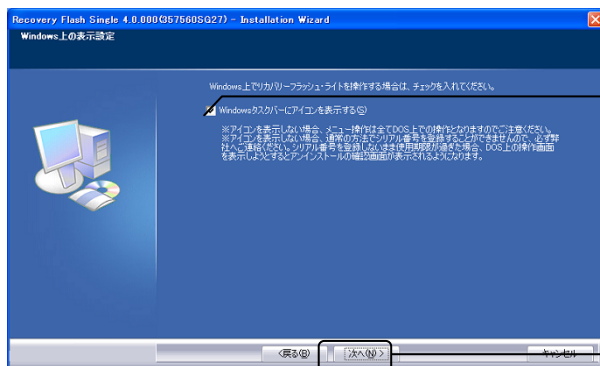
OBIOs 設定の保護モード:

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自動修復: | 「リカバリー・フラッシュ・シングル」が BIOS 設定の変更を検出すると、自動で変更前の設定値に修復し起動します。 |
| 手動修復: | 「リカバリー・フラッシュ・シングル」が BIOS 設定の変更を検出すると、OS 起動前に「BIOS 修復選択画面」が表示されます。「修復」「保存」「無視」のいずれかを選択してください。 |
| 未保護: | BIOS 設定の変更を監視・検出しません。 |



システム管理者はパスワードを設定しておくことをお勧めします。また設定したパスワードはむやみに公開せず、さらに忘れないようご注意ください。

9. Windows タスクバーにアイコンの表示/非表示を選択します。



タスクバーにアイコンを表示する場合は、チェックを入れます。

「次へ」をクリック



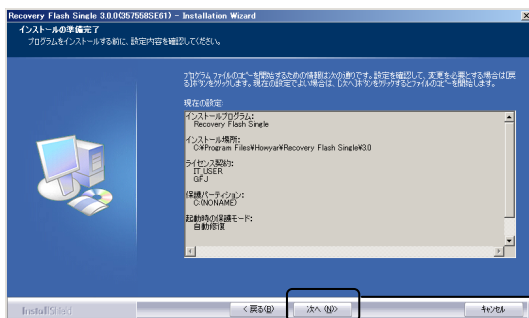
※タスクバーにアイコンを表示しない場合、メニュー操作は全てDOS上での操作となります。Windows上ではメニュー画面を表示／操作することができませんのでご注意ください。

※タスクバーにアイコンを表示しない場合、通常の方法でシリアル番号を登録することができませんので、必ず弊社へご連絡ください。

詳細は「[5-3 登録](#)」をご参照ください。

シリアル番号を登録しないまま体験版の試用期限が過ぎた場合、DOS上のメニュー画面を表示しようとするとアンインストールの確認画面が表示されるようになります。

10. 現在の設定をご確認の上、よろしければ、「次へ」をクリックしてください。



「次へ」をクリック

11. インストールが開始されます。

12. 「完了」をクリックするとコンピュータは再起動し、DOSモードへのインストールを実行します。



「完了」をクリック

5-3 登録

インストールした「リカバリー・フラッシュ・シングル」は、期限付きの体験版になっていますので、正式に使用する場合は、シリアル番号などを登録する必要があります。シリアル番号を登録すると、ご購入ライセンス分のPCで継続して使用することができます。

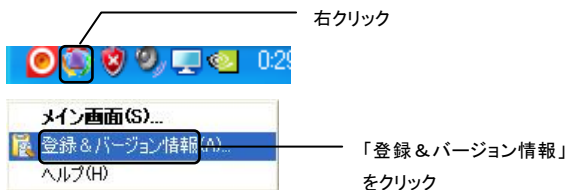
注意

ご購入ライセンス以上の PC にシリアル番号を登録した場合、LAN 内のいずれかの PC (ライセンス未購入分の台数) が体験版の状態になりますのでご注意ください。

以下の手順で登録を行ってください。

5-3-1 Windows タスクバーにアイコンを表示させている場合

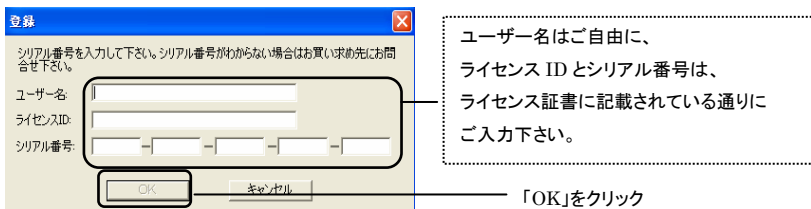
1. タスクバーの「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアイコンを右クリックし、表示されるポップアップメニューから「登録 & バージョン情報」をクリックします。



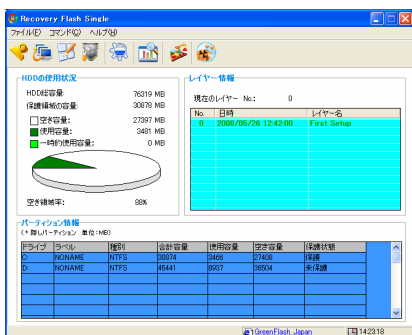
2. 次の画面が表示されたら、「登録」をクリックします。



3. ユーザー名、ライセンス ID、シリアル番号の入力画面が表示されます。
ユーザー名はご自由に、ライセンス ID とシリアル番号はライセンス証書に記載されている通りに入力して「OK」をクリックしてください。



4. 登録に成功すると、「リカバリー・フラッシュ・シングル」のメイン画面が表示されます。



5-3-2 Windows タスクバーにアイコンを表示させていない場合

タスクバーにアイコンを表示しない設定でインストールした場合は、通常の方法でシリアル番号を登録することができませんので、下記 URL の「ご購入後のお問い合わせ」からご連絡いただくか、下記の通りメールでご連絡ください。

サポートURL <http://www.gfj.co.jp/rfmail>

メール: service@gfj.co.jp

ご連絡時に記載が必要な情報:


お名前、ご連絡先、ソフト名、ソフトのバージョン、シリアル番号、ご購入年月日またはライセンス証書番号、ライセンス数、ライセンス証書に記載されている方のみ「管理番号」をお知らせ下さい。

6. Windows での操作

「リカバリー・フラッシュ・シングル」のメイン画面を開く方法は以下の通りです。

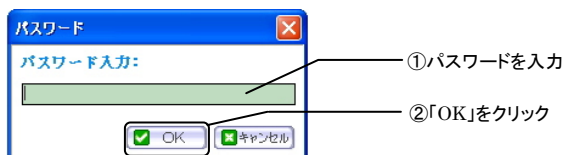


※タスクバーにアイコンを表示しない設定でインストールした場合、Windows 上ではメニュー画面を表示／操作することができません。
「[7. DOS 上での操作](#)」をご参照ください。

1. タスクバーにある「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューから「メイン画面」を選択しクリックします。




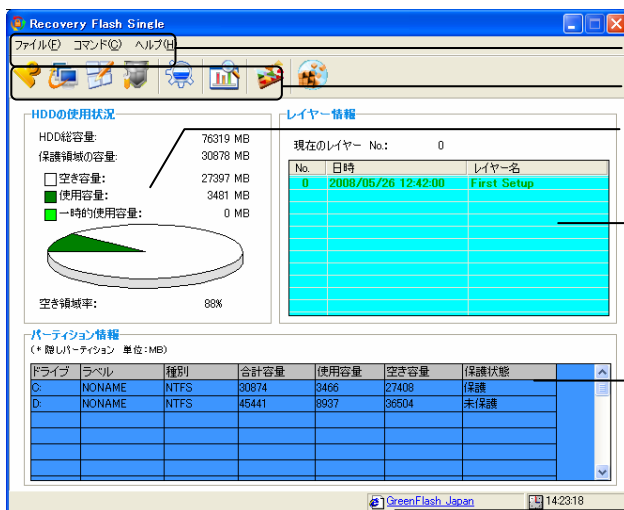
2. パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力し、「OK」をクリックすると、メイン操作画面が表示されます（パスワードを設定していない場合は、空欄のまま「OK」をクリックしてください）。



メイン画面を操作してコマンドを適用しても、コンピュータを再起動しないと、コマンドは実行されません。

6-1 情報

- 機能バーの「情報」アイコンをクリックするか、メニューバーから「コマンド」>「情報」をクリックすると、「HDD 情報画面」が表示されます。
- この情報画面には保護ハードディスクの使用状況、レイヤー情報、およびパーティションの情報が表示されています。



メニューバー

機能バーのアイコン

①HDD の使用状況

②レイヤーの保存状態/
設定日時を表示。
ダブルクリックで
名前の変更も可能

③ハードディスクの
パーティション情報を
表示

HDD の使用状況:

保護ハードディスクの合計容量、保護領域の使用容量と空き容量、レイヤー作成のために一時的に使用した容量（一時的使用容量）。

パーティション情報:

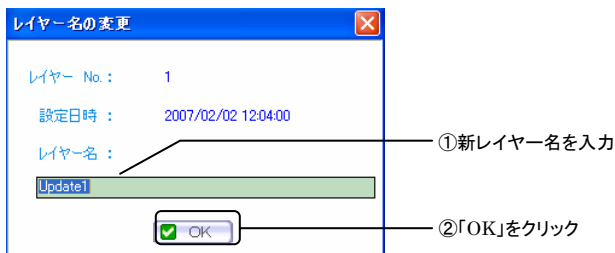
保護ハードディスクのパーティションの分割状況、各パーティションの使用容量/空き容量、保護/未保護状態を表示します。



HDD の使用状況で表示している「空き容量」「使用容量」「一時的使用容量」は、ハードディスク全体ではなく保護領域に対する容量を示しています。「空き領域率」は、保護領域に対する空き領域の割合を表示しています。

レイヤー情報:

レイヤーは、基準レイヤーの他に2つ作成できます。「保存」コマンドを実行することで、レイヤーが作成されます。2つのレイヤーを作成した後、さらにレイヤーを作成すると、自動的に古い日時のレイヤーが削除されます。基準レイヤー(レイヤー番号0)は、初めは「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールした時の保護領域の状態です。レイヤー名は「First Setup」と表示されます。それ以降は、「更新」コマンドにより、「基準レイヤー」を「現在の状態」か既存のレイヤーの状態に更新することができます。またレイヤーのリストボックスのレイヤー名をダブルクリックすると、レイヤー名を変更することができます。

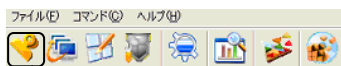


DOS モードでは、半角英数字のレイヤー名しか表示されませんので、半角英数字でレイヤー名をつけることをお勧めします。

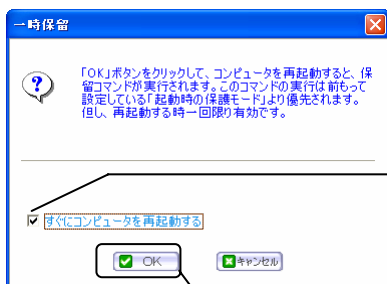
6-2 一時保留

「自動修復」でご利用中に、アプリケーションのインストールやドライバの更新等をして、コンピュータの再起動を要求されることがあります。その際は、「一時保留」コマンドを実行するか、保護モードの設定を「保留」に変更することで、再起動をしても修復されずにインストールや更新作業を行うことができます。

但し、「一時保留」コマンドの場合、修復されずに再起動できるのは「一時保留」コマンド実行後の、1回目の再起動のみです。保護モードの設定については、「[6-6 設定](#)」をご参照ください。



「一時保留」アイコンをクリック




①すぐに再起動するにはここをチェック
あとで再起動する場合はチェックをはずす

②「OK」をクリック

「一時保留」コマンドを実行する手順は以下の通りです。

【例：一時保留コマンドを実行してからアプリケーションをインストールする場合】


1. 機能バーの「一時保留」アイコン  をクリックするか、メニューバーの「コマンド」>「一時保留」をクリックすると、「一時保留」コマンド実行の確認画面が表示されます。
2. 確認画面で「すぐにコンピュータを再起動する」のチェックを外し、「OK」をクリックすると、コマンドが実行されます。これで、次回コンピュータを再起動したときは、「一時保留」モードで起動されるようになります。このコマンドは、「起動時の保護モード」の設定（自動修復など）より優先されますが、修復されずに再起動できるのは、コマンド実行後の1回目の再起動時のみです。
3. 新しいアプリケーションをインストールします。その際、インストールに伴う再起動を行うと、コンピュータは「一時保留」モードで起動され、アプリケーションのインストールが完了します。
4. 「更新保存」コマンドで、現在の状態を保存します。保存については、[「6-4 更新保存」](#)をご参照ください。



「一時保留」コマンドを実行する前にアプリケーションをインストールし、自動的に再起動されてしまった場合は、Windowsが立ち上がる前にDOS上のメイン操作画面を呼び出し、「一時保留」コマンドを実行することができます。詳しくは、[「7 DOS上での操作」](#)をご参照下さい。

6-3 基準レイヤーに修復

新しいソフトのインストールに失敗したり、大事なファイルを消滅させてしまったり、何か不具合が起きた場合、「リカバリー・フラッシュ・シングル」が記憶している基準レイヤーのきれいな環境に修復することができます。

1. 機能バーの「基準レイヤーに修復」アイコンをクリックするか、メニューバーから「コマンド」>「基準レイヤーに修復」をクリックすると、確認画面が表示されます。



「基準レイヤーに修復」
アイコンをクリック

2. 基準レイヤーに修復したい場合は、「はい」を押してください。
自動的にコンピュータが再起動され、基準レイヤーの状態に修復されます。




「はい」をクリックすると、
修復が実行されます。

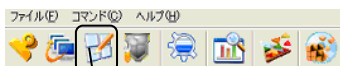


「設定」の「起動時の保護モード」で「自動修復」にしている場合は、このコマンドを実行しなくても、PC を再起動すれば自動的に「基準レイヤー」の状態に修復されます。

6-4 更新保存（基準レイヤーの更新）

初めは、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールした時の状態が「基準レイヤー」(レイヤー0)ですが、この「基準レイヤー」を更新していくことができます。ご都合に合わせて、「現在の状態」を「基準レイヤー」にすることができます。

1. 機能バーの「更新保存」アイコンか、メニューバーの「コマンド」>「更新保存」をクリックすると、確認画面が表示されます。

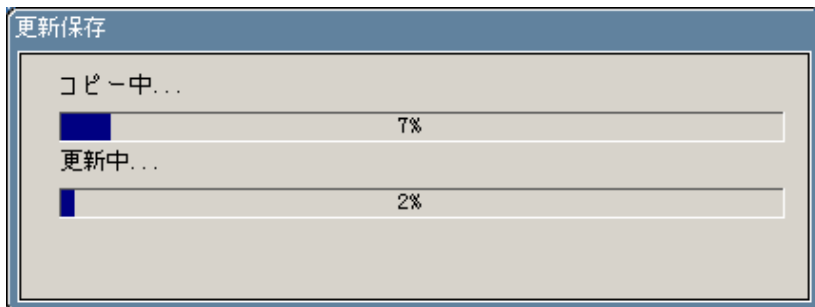


「更新保存」アイコンをクリック

2. 現在の保護領域の状態を基準レイヤーにしたい場合は、「はい」を押してください。
自動的にコンピュータが再起動して、基準レイヤーが更新されます。



「はい」をクリックすると、更新保存が実行されます。



6-5 保護一時解除


6-5-1 保護一時解除

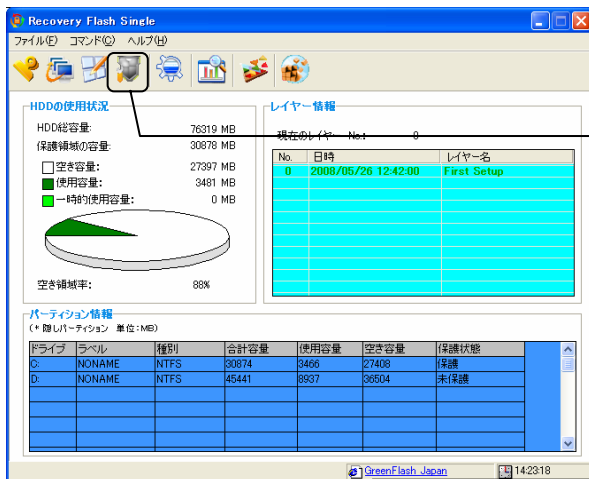
保護一時解除を実行すると、保護していた基準レイヤーは削除されます。その後、PC 環境の更新等を行い、保護一時解除を終了すると、その新しい状態を基準レイヤー(No.0)にすることができますが、下記にご注意ください。



※保護一時解除中は、リカバリー・フラッシュ・シングルをアンインストールしている時と同じ状態です。保護一時解除中に、ウィルスに感染したり、何かの原因でデータが破損しても、「修復」することはできません。保護一時解除中の操作による PC の不具合は、サポート対象外となりますので予めご了承ください。

※上記理由から、基準レイヤー更新時は、「保留」機能(7-6「設定」)と「6-4 更新保存」機能のご使用をお勧めいたします。

1. HDD 情報画面で「保護一時解除」アイコン  をクリックします。ツールバー > コマンド > 「保護一時解除」でも実行することができます。保護一時解除を実行すると、その他のレイヤーはすべて削除されますのでご注意ください。



「保護一時解除」アイコンをクリック

2. 現在の状態で解除するか、基準レイヤーに修復してから解除するかを選び、チェックを入れます。選択に間違いなければ画面右下の「適用」をクリックしてください。

①現在の状態で保護一時解除をするにはここにチェック

②基準レイヤーに修復してから保護一時解除をするにはここにチェック

③すぐ実行する場合にはここにチェック

④「適用」をクリック

| No. | 日時 | レイヤー名 |
|-----|-------------|------------|
| 0 | First Setup | 2008/05/26 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

3. 確認画面が表示されるので、よろしければ「OK」をクリックしてください。コンピュータが再起動し、保護一時解除の状態になります。（注:「コマンド実行後、すぐにコンピュータを再起動」にチェックを入れずに「適用」をクリックすると、すぐに再起動せず、コマンドはコンピュータを再起動した時に実行されます。）


「OK」をクリック

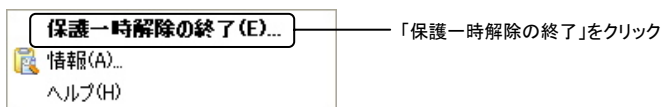


保護一時解除中に操作した内容は、修復できませんのでご注意ください。
また保護一時解除中にウイルスに感染したり、データが破損した状態で保護一時解除を終了すると、その状態で保護を再開しますのでご注意ください。

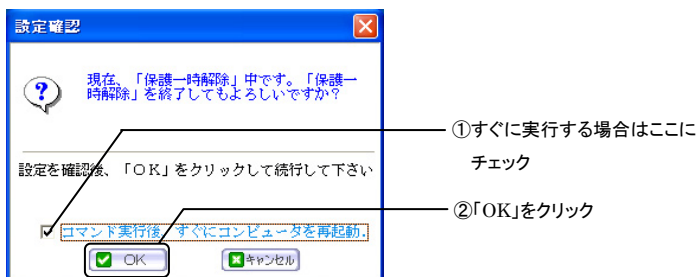
6-5-2 保護一時解除の終了

保護一時解除を終了することで、「リカバリー・フラッシュ・シングル」を保護状態に戻すことができます。再インストールとは違い、保護パーティションやその他の設定内容は前回と同じ状態になるので、再設定の必要はありません。

1. タスクトレイにある「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューから「保護一時解除の終了」を選択しクリックします。




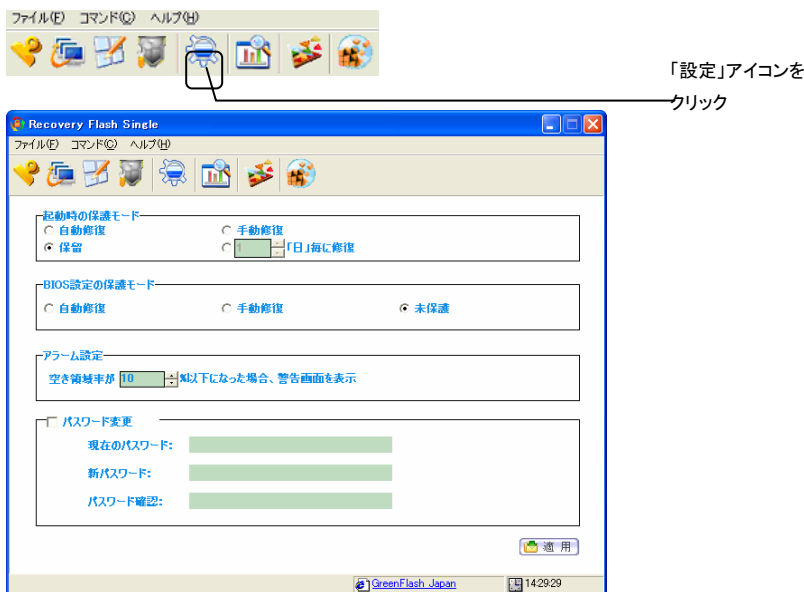
2. 保護一時解除の終了確認画面が表示されるので、よろしければ「OK」をクリックしてください。コンピュータが再起動し、再び保護状態になります。（注:「コマンド実行後、すぐにコンピュータを再起動」にチェックを入れずに「適用」をクリックすると、すぐに再起動せず、コマンドはコンピュータを再起動したときに実行されます。）



保護一時解除を終了すると、「リカバリー・フラッシュ・ライト」は保護機能を再開し、その時点のHDDの保護領域状態が新規の基準レイヤー(No.0)になります。

6-6 設定

機能バーの「設定」アイコンをクリックするか、メニューバーから「コマンド」>「設定」をクリックすると、設定画面が表示されます。



起動時の保護モード

・自動修復:

コンピュータを再起動するたびに、保留したデータは全て削除されて、元の状態に戻ります。

・「日」毎に修復する:

修復する間隔は、日単位で設定することができます。

・保留:

コンピュータを再起動しても自動で修復せず、最後に終了した時の状態で起動します。

・手動修復:

コンピュータを再起動するたびに「保留」「修復」のいずれかを選択する確認画面が表示されます。

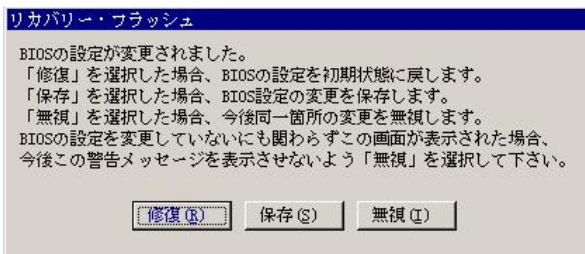
BIOS 設定の保護モード

・自動修復:

「リカバリー・フラッシュ・シングル」が BIOS 設定の変更を検出すると、自動で変更前の設定値に修復し起動します。

・手動修復:

「リカバリー・フラッシュ・シングル」が BIOS 設定の変更を検出すると、OS 起動前に以下の「BIOS 修復選択画面」が表示されます。「修復」「保存」「無視」のいずれかを選択してください。



・未保護:

BIOS 設定の変更を監視・検出しません。

アラーム設定

「保存」(レイヤー作成)や「保留」操作により、必要な保護領域の空き容量が、設定値以下になったときに警告画面を表示することができます。初期値は 10%になっていますが、変更することも可能です。変更した場合は画面右下の「適用」をクリックしてください。

パスワード変更


パスワードの変更をするには、「パスワード変更」にチェックを入れて、現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。「パスワード確認」の欄には、新しいパスワードを入力してください。

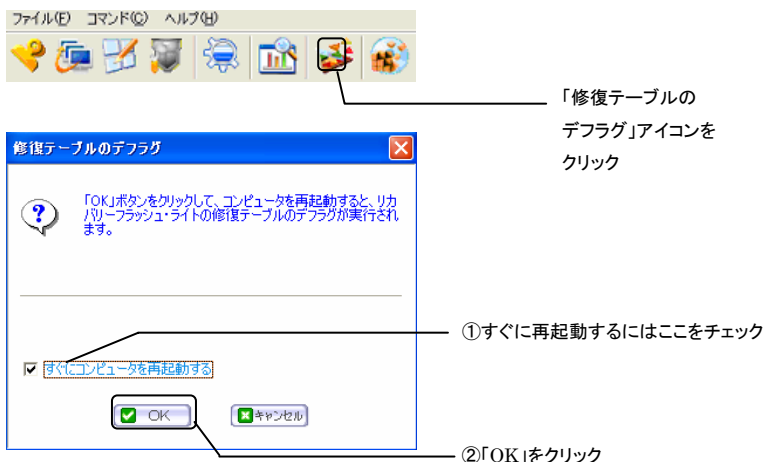
設定が終了したら「適用」をクリックしてください。



「起動時の保護モード」「BIOS 設定の保護モード」「アラーム設定」「パスワード変更」はそれぞれの変更後に「適用」をクリックしないと有効になりません。


6-7 修復テーブルのデフラグ

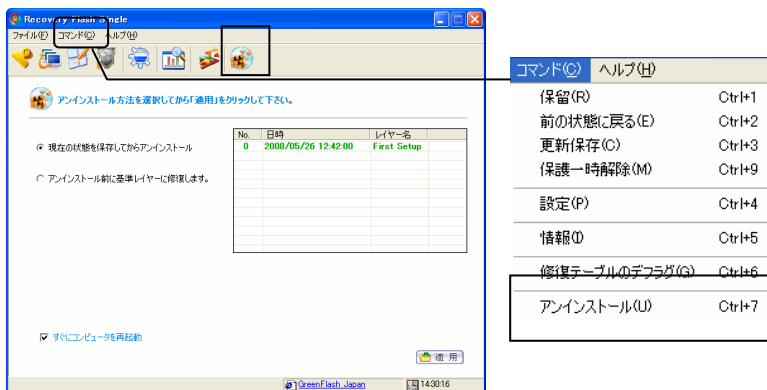
1. 機能バーの「修復テーブルのデフラグ」アイコンをクリックするか、メニューバーから「コマンド」>「修復テーブルのデフラグ」をクリックすると、修復テーブルのデフラグコマンド実行の確認画面が表示されます。
2. 「OK」をクリックすると、コマンドが適用されます。次にコンピュータを起動したときに「リカバリー・フラッシュ・シングル」の修復テーブルをデフラグすることができます。



6-8 Windows 上からのアンインストール

6-8-1 リカバリー・フラッシュ・シングル操作画面からのアンインストール

- 機能バーの「アンインストール」アイコン  か、メニューバーの「コマンド」>「アンインストール」をクリックすると、アンインストール方法の選択画面が表示されます。



- 「リカバリー・フラッシュ・シングルをアンインストールした後の PC の状態」をどのようにするか選択します。

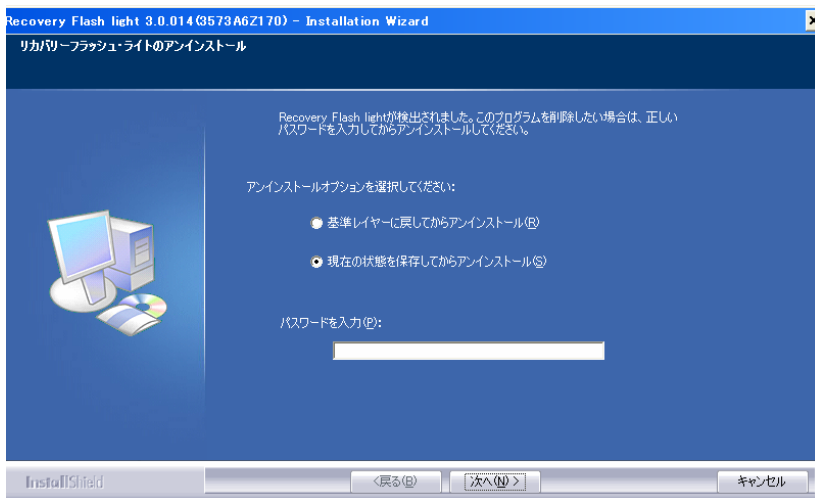
「現在の状態を保存してからアンインストール」を選択すると、一度「現在の状態」を保存した後、その状態のまま「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールすることができます。

「アンインストール前に基準レイヤーに修復」を選択すると、基準レイヤーの状態に修復してから、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールすることができます。

- 「すぐにコンピュータを再起動」にチェックをいれたまま「適用」をクリックすると、自動的に PC が再起動し、アンインストールが開始されます。
「すぐにコンピュータを再起動」のチェックをはずして「適用」をクリックすると、次回 PC が再起動した時に、アンインストールが開始されます。

6-8-2 コントロールパネルからのアンインストール

1. コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または「アプリケーションの追加と削除」で、「Recovery Flash Light」を選択し、「削除」ボタンをクリックします。
2. 自動的にアンインストール画面が表示されます。



3. 「リカバリー・フラッシュ・シングルをアンインストールした後の PC の状態」をどのようにするか選択します。
「基準レイヤーに戻してからアンインストール」を選択すると、基準レイヤーの状態になった後、その状態のまま「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールすることができます。
「現在の状態を保存してからアンインストール」を選択すると、一度「現在の状態」を保存した後、その状態のまま「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールすることができます。



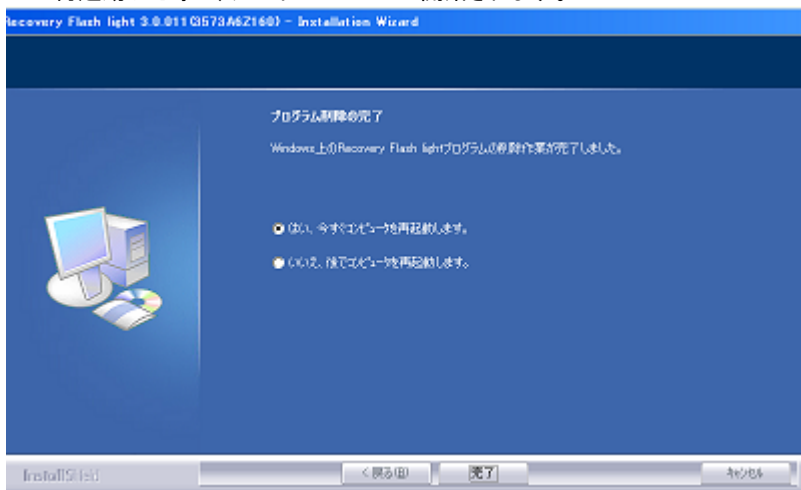
DOS 上でもアンインストールすることができますが、DOS 上からのアンインストールは、「基準レイヤーに戻してからアンインストール」のみとなります。
詳しくは、「[7-7 DOSからのアンインストール](#)」をご参照下さい。

4. パスワードを入力して「次へ」をクリックしてください。

5. 下記の画面が表示されます。

「今すぐコンピュータを再起動」を選択して「完了」をクリックすると、自動的に PC が再起動し、アンインストールが開始されます。

「後でコンピュータを再起動」を選択して「完了」をクリックすると、次回 PC が再起動した時に、アンインストールが開始されます。



6-8-3 アンインストール方法の比較

| | <u>操作画面から</u> | <u>コントロール パネルから</u> | <u>DOS上から</u> |
|--------------------------|---------------|-------------------------|---------------|
| 現在の状態を保存してから アンインストール | ○ | ○ | × |
| 基準レイヤーに戻してから アンインストール | ○ | ○ | ○ |

(○…可能、 ×…不可能)

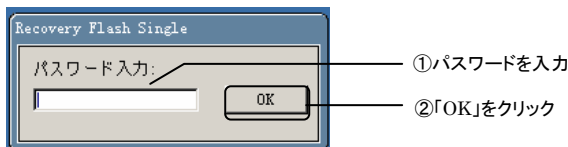
7. DOS 上での操作

インストール時に「リカバリー・フラッシュ・シングル」を[Windows上に表示しない設定](#)にした場合や、システムの不具合などによりWindowsが起動しなくなった場合は、DOS上から操作することができます。

DOS上のメイン操作画面の呼び出し方

コンピュータを起動し、OSが立ち上がる前の黒い画面の時に、左上に「 . . . 」が表示されPCからビーブ音が聞こえます。その音が聞こえた時に、「Home」キー（ノートパソコンの場合は「Fn」+「Home」の場合もあります）を数回押すと、パスワード画面が表示されます。あらかじめ設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックすると、DOS 上での「リカバリー・フラッシュ・シングル」のメイン操作画面を呼び出すことができます。

操作はマウスでもできますが、キーボードを使用する際は「カーソル」キーまたは「Tab」キーで移動・選択し、「スペース」または「Enter」で決定してください。メイン操作画面で操作を中止する場合は「Esc」キーを押してください。



Windows 上でのほとんどの操作をDOS上で行うことができます。

※Windows 上でのみ有効な操作

- ・「 [6-7 Windows上からのアンインストール](#) 」の中の
 - ・現在の状態を保存してからアンインストール

7-1 一時保留

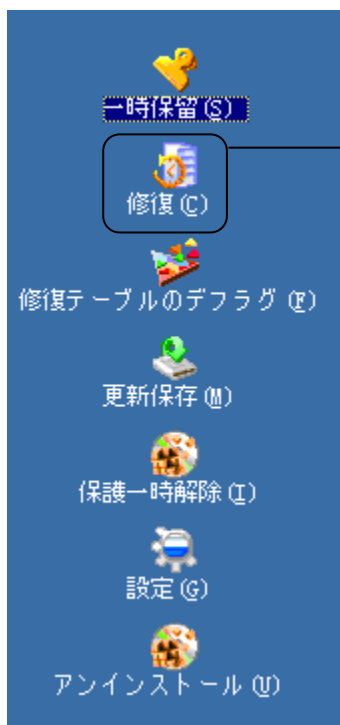
メイン操作画面で「一時保留」アイコンをクリックすると、コンピュータは自動修復せず、最後に終了した時の状態で起動します。

この操作は「起動時の保護モード設定」(修復など)にかかわらず 1 回限り実行されます。

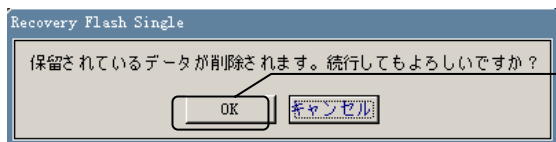


7-2 修復

メイン操作画面で「修復」アイコンをクリックすると、確認画面が表示されます。「OK」をクリックすると、保留したデータは全て削除されて、元の状態に戻ります。この操作も「起動時の保護モード」の設定（保留など）にかかわらず1回限り実行されます。



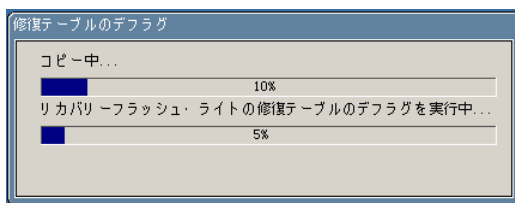
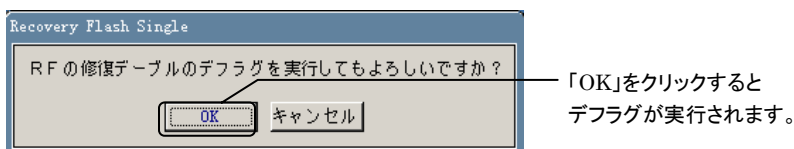
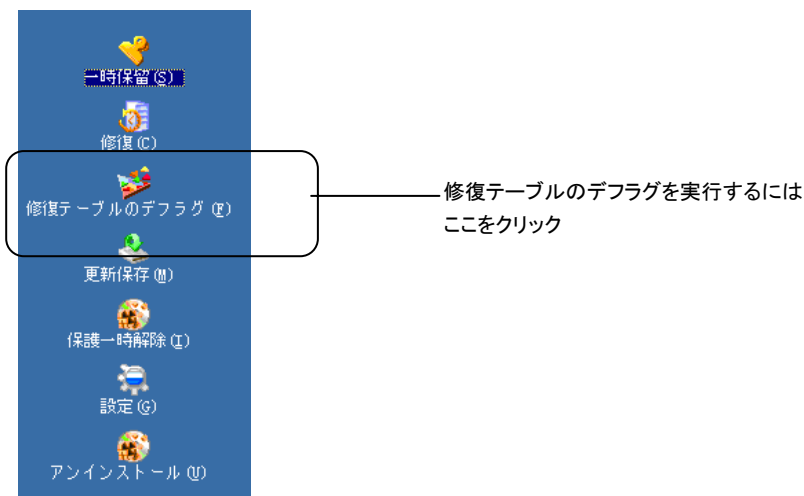
「修復」を実行するにはここをクリック



「OK」をクリックすると修復して起動します

7-3 修復テーブルのデフラグ

メイン操作画面で「修復テーブルのデフラグ」アイコンを選択すると、「リカバリー・フラッシュ・シングル」の修復テーブルのデフラグが実行されます。

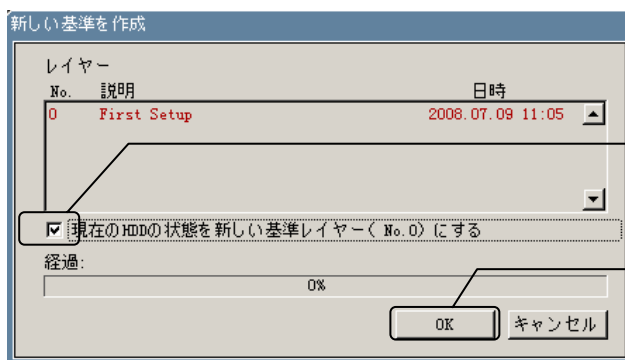


7-4 更新保存

メイン操作画面で「更新保存」アイコンを選択すると、現在の保護領域の状態を「基準レイヤー」に更新することができます。

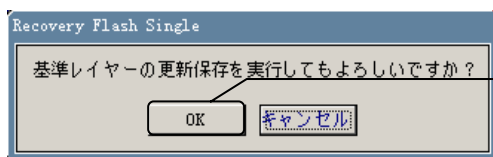


基準レイヤーを更新するにはここをクリック



チェックをいれる

OKをクリック



「OK」をクリックすると
更新保存が実行されます。

7-5 保護一時解除

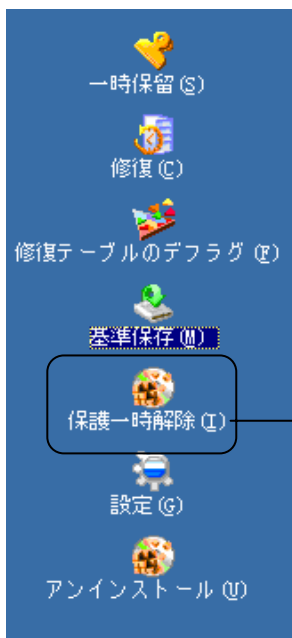
7-5-1 保護一時解除

保護一時解除を実行することで、新規プログラム(ファイル)のインストールをしたり、「NortonGhost」等によるイメージの作成」また「Windows update」を行うことができます。

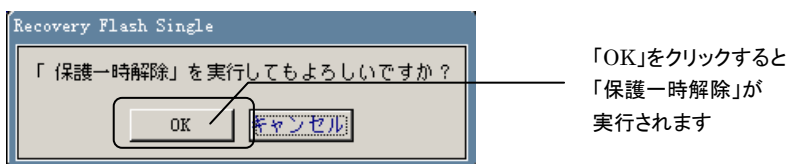
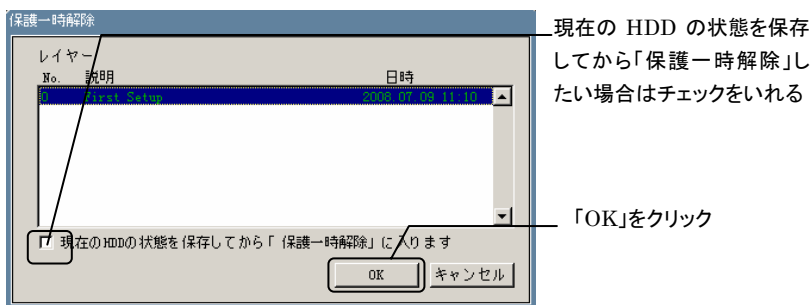


※保護一時解除を実行すると、保護していた基準レイヤーは削除され、保護一時解除を終了したときの状態が基準レイヤー(No.0)となります。

※保護一時解除中は、リカバリー・フラッシュ・シングルをアンインストールしている時と同じ状態です。保護一時解除中に、ウィルスに感染したり、何かの原因でデータが破損しても、リカバリー・フラッシュ・シングルは修復することはできません。保護一時解除中の操作によるPCの不具合は、サポート対象外となりますので予めご了承ください。

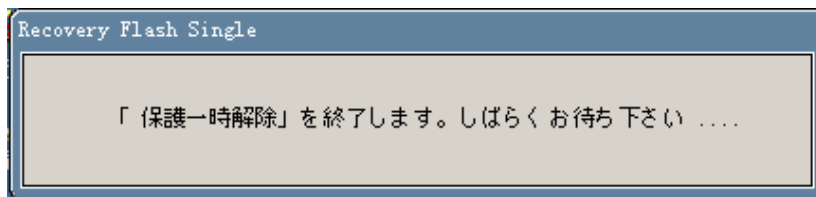
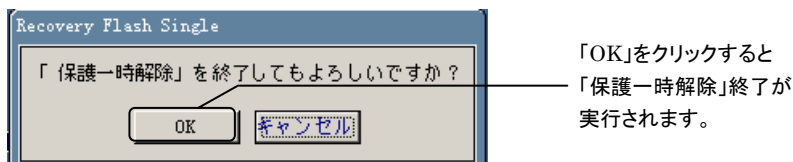
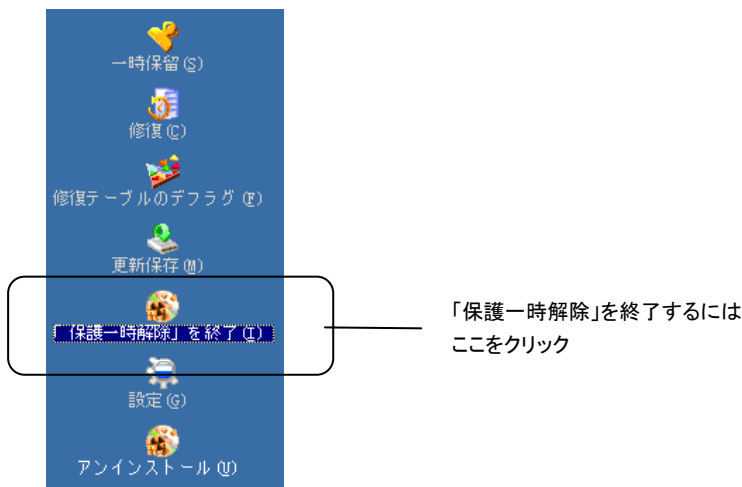


「保護一時解除」をするにはここをクリック



7-5-2 保護一時解除の終了

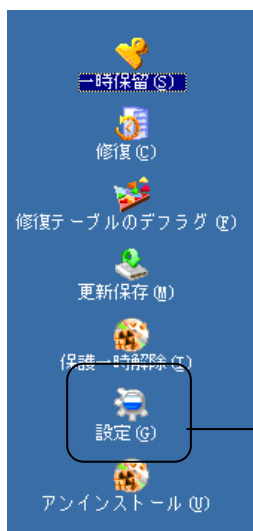
保護一時解除を終了することで、「リカバリー・フラッシュ・シングル」を保護状態に戻すことができます。



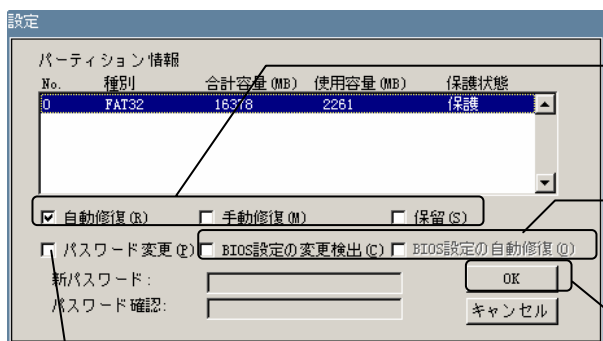
保護一時解除を終了すると、「リカバリー・フラッシュ・シングル」は保護機能を再開し、その時点のHDDの保護領域状態が新規の基準レイヤー(No.0)になります。

7-6 設定

メイン操作画面で「設定」アイコンを選択すると、設定画面が表示され、ここから各種設定の変更ができます。



「設定」をするにはここをクリック



①保護モードを変更するにはいずれかを選択し、チェックを入れる

③「BIOS 設定の変更検出」をするか、また自動で修復するかを選択し、チェックを入れる

④「OK」をクリック

②パスワードの変更にはここにチェックを入れ、新パスワードと確認のため同じパスワードを入力

起動時の保護モード

「自動修復」「手動修復」「保留」のいずれかを選びます。

・自動修復:

コンピュータを再起動するたびに、保留したデータは全て削除されて、元の状態に戻ります。

・手動修復:

コンピュータを再起動するたびに「保留」「修復」のいずれかを選択する確認画面が表示されます。

・保留:

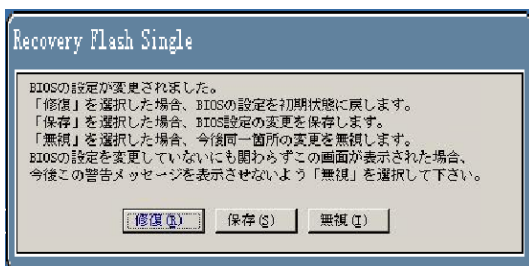
コンピュータを再起動しても自動で修復せず、最後に終了した時の状態で起動します。

パスワード変更

パスワード変更をする場合は「パスワード変更」にチェックを入れ、新パスワードの入力と、その下に確認のため再入力を行ってください。(最大 8 文字、半角英数字のみ使用可能)

BIOS 設定の変更検出

BIOS 設定の変更を検出すると、再起動するたびに次の「BIOS 修復選択画面」が表示されます。「修復」「保存」「無視」のいずれかを選択してください。



◆ 修復

BIOS 設定の変更を検出すると、元の状態に修復します。

◆ 保存

変更された BIOS 設定の構成を正しいものとし、保存します。

◆ 無視

無視を選択すると、今後同一箇所の変更に対し変更検出を行いません。BIOS で検知するファンの回転数や電源電圧等の変動などにより、この画面が表示されるときは「無視」を選択してください。

BIOS 設定の自動修復

コンピュータを再起動時に BIOS 設定の変更を検出すると、元の状態に修復します。

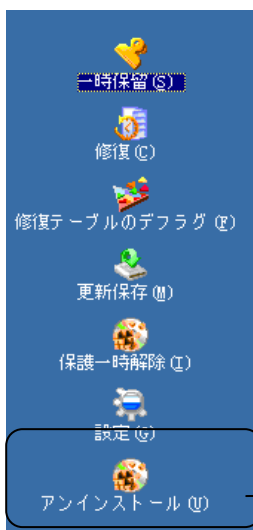


それぞれの設定が終了したら、画面右下の「OK」をクリックしてください。また全ての設定が終了したら「Esc」キーを押し、メイン操作画面を終了させてください。

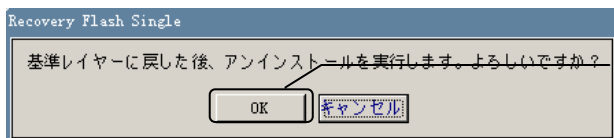
7-7 DOS 上からのアンインストール

メイン操作画面で「アンインストール」アイコンを選択すると、アンインストール確認画面が表示されるので、よろしければ「OK」をクリックしてください。

コンピュータが再起動し、DOS 上での処理が実行されます。その後、もう一度自動的に再起動し、Windows での処理が実行され、「リカバリー・フラッシュ・シングル」は完全にアンインストールされます。



「アンインストール」アイコンをクリック



「OK」をクリック




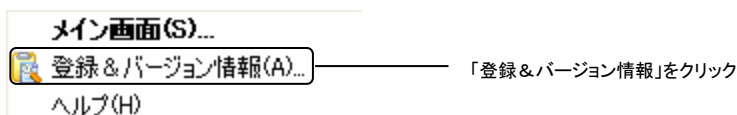
DOS 上からのアンインストールでは、Windows 上からの時のように、「**現在の状態を保存してからアンインストール**」をすることができません。

DOS 上からのアンインストールの場合、保留中のデータは削除され、基準レイヤーの状態に戻ってからアンインストールされます。

8. その他

8-1 情報


1. タスクトレイにある「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューから「登録&バージョン情報」を選択します(もしくは、メニューバーからヘルプ>「登録&バージョン情報」をクリックします)。

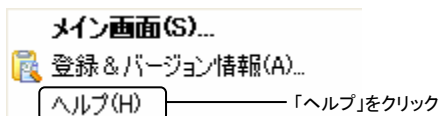


2. 本製品のバージョンや、ライセンスについての注意事項などが表示されます。



8-2 ヘルプ

1. タスクトレイにある「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューから「ヘルプ」を選択します(もしくは、メニューバーからヘルプ>「ヘルプ」をクリックします)。



Q & A

Q1 複数のコマンドを同時に実行することはできますか。

A1 いいえ、最後に適用したコマンドが有効になり、コンピュータ再起動時に実行されます。またコマンドを「適用」しても再起動するまでは有効にはなりません。

Q2 Windows が起動しなくなりました。

A2 コンピュータ起動時に「Home」または「Ctrl」+「Home」キーを断続的に押してください。パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力し「OK」をクリックします。メイン画面が表示されるので、「修復」または「前に状態に戻る」を選択します。

Q3 アンチウイルスソフトと共存できますか。

Q3 はい、共存は可能です。ただし「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールする際は機能を停止させておくことをお勧めします。

Q4 Windows 上で表示される HDD の空き容量と、「リカバリー・フラッシュ・シングル」の HDD 情報画面の数値が違います。

A4 「リカバリー・フラッシュ・シングル」インストール後の HDD の保護領域の容量計算方式は Windows と違いますので、「リカバリー・フラッシュ・シングル」の HDD 情報画面を参照してください。

Q5 DOS モードに入ると Windows 上で適用したコマンドは無効になるのはなぜですか。

A5 すべてのコマンドは最後に選択・適用した項目が、Windows 起動時に実行されます。DOS モードに入ると、それが最後に選択されたコマンドとみなされるためです。

Q6 ハードディスクは長時間の操作によってフラグメントが発生し、Windows のパフォーマンスが落ちますが、どのようにデフラグメントしたらよいですか。

A6 完全なデフラグメントという見地からいえば、ディスクをいったんフォーマットし、Windows の再インストールから始めるのが理想的です。それが不可能な場合は、Windows 付属のデフラグメント・ツールを使ってデフラグ処理を行います。ただし、デフラグメント前は「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールしてください。

Q7 保護領域の空き容量が少なくなると、パフォーマンスの低下を感じるがありますが、どのように対処したらよいですか。

A7 仮想メモリを別の保護しないドライブに待避させて、保護領域の空き容量を少しでも増やすようにすると、システムのパフォーマンスが上がります。

Q8 管理者パスワードを忘れてしまいました。どうしたらいいですか？

A8 以下の手順で、弊社へメールでお問い合わせ下さい。

- ① 空のフロッピーディスクをセットして、MS-DOS 起動ディスクを作成してください。
- ② 「リカバリー・フラッシュ・シングル」の CD-ROM を挿入してください。
- ③ エクスプローラを起動し jpn フォルダの下の setup フォルダにある readpwd.exe を、作成した MS-DOS 起動ディスクにコピーしてください。
- ④ MS-DOS 起動ディスクを起動してください。
- ⑤ A:¥>が表示されたら、readpwd と入力し[Enter]キーを押下してください。
- ⑥ 表示された全 10 組 20 文字 または 16 文字の数字/英数字をメール (service@gfj.co.jp) で弊社までお送りください。恐れ入りますが確認のため、下記事項も明記してお送りください。
 1. 「リカバリー・フラッシュ・シングル」のシリアル番号
 2. お名前(店舗名・学校名)
 3. 店舗・学校等でご使用の際はご担当者名
 4. ご連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)
 5. 購入場所または購入会社

お送り頂いた英数字から、お客様のパスワードをお調べします。分かり次第、早急に返信いたします。

Q9 USB キーボードを使用していますが、問題はありませんか？

A9 ご使用されている PC によって、標準の BIOS 設定では USB が使用不可になっている場合があります。このような場合は、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールする前に、BIOS 設定で「USB Device Legacy Support」や「USB Keyboard Support」を「Enable」や「All Device」に変更して、USB キーボードを有効にする必要があります（BIOS によって名前が違う場合がありますので、詳しくはお使いのマザーボードのマニュアルをご覧ください）。

Q10 「リカバリー・フラッシュ・シングル」のインストールの仕組みはどうなっているのですか？

A10 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールの仕組みは、先にWindowsモードをインストールした後、再起動される段階で、DOSモードのプログラムが自動的にインストールされるようになっています。

Q11 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストール後、再度インストールしようとしたが、エラーになってインストールできない。

A11 Windows 上か DOS 上に、まだ「リカバリー・フラッシュ・シングル」のプログラムが残っていて、完全にアンインストールできていない可能性があります。DOS 起動機能が付いている「RF の削除ツール」を利用して、以下のように完全な削除を行うことができます。

削除手順：

1. DOS 起動可能な「RF の削除ツール」を起動させてください。
2. 「RF の削除」を選択し実行してください。
3. 「RF の削除ツール」を取り出してから、コンピュータを手動で再起動してください。

※Windows 起動後、もし、Windows 上に RF のファイル等が残っていた場合は、コンピュータは自動的に再起動し、それらを削除します。

以上で「リカバリー・フラッシュ・シングル」が完全にアンインストールされ、再インストールが可能になります。

Q12 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストール後、Windows が起動しなくなりました。

A12 マザーボードの BIOS やチップセットとの相性で Windows が起動しない場合があります。

PCを再起動し、Windowsが起動する前に「Home」キーを押して「リカバリー・フラッシュ・シングル」を呼び出せるか確認してください。呼び出せる場合は、[「7-7 DOS上からのアンインストール」](#)の手順で、「リカバリー・フラッシュ・シングル」をアンインストールしてください。

「Home」キーで「リカバリー・フラッシュ・シングル」を呼び出せない場合は、A11の手順で「リカバリー・フラッシュ・シングル」を削除してください。

Q13 「リカバリー・フラッシュ・シングル」のアンインストール中に止まって先へ進まない。

A13 PC をリセットし再起動してください。アンインストール作業が再開します。再開後も状況が改善しない場合、システムが破損している可能性があります。A11を参照の上、削除ツールで「リカバリー・フラッシュ・シングル」を削除してください。削除後 Windows が起動しない場合は Windows の再インストールを含むシステムの再構築が必要になります。

Q14 SATA のハードディスクでも使えますか？

A14 使えます。ただし、混在して使われている場合は、IDE のみが保護の対象になります。SATA のハードディスクを保護したい場合は、SATA のみで構成してください。また、ハードディスクが複数台接続されている場合、保護できるのはプライマリマスタのハードディスクのみです。2 台目以降は保護できません。

Q15 「BIOS 設定の保護モード」の BIOS 修復機能を「有効」に設定して、BIOS 設定の変更をしても、再起動のたびに修復することができません。

A15 「BIOS 設定の保護モード」の BIOS 修復機能は、CMOS に保存されている BIOS 設定情報を再起動するたびに修復する機能です。CMOSに保存されている設定情報の保存場所は、ほとんどの PC で共通していますが、中には通常と異なる場所に保存されている PC もあります。このような PC の場合、BIOS 修復機能が動作しません。BIOS 修復機能が正常に動作しない場合は、この機能を無効にしてください。

Q16 「リカバリー・フラッシュ・シングル」と、メーカー製パソコンに付属されているシステム回復用のバックアップの復元ソフトとの相性はどうなっていますか？

A16 最近のメーカー製パソコンは、ハードディスクの大容量化に伴い、リカバリーデータをハードディスク内の隠し領域に保存している機種が増えています。ご使用のメーカー製パソコンに付属しているバックアップの復元ソフトと、「リカバリー・フラッシュ・シングル」は、ともにMBRに対して書き替えを行うことができますので、バックアップの復元ソフトが機能しなくなる可能性があります。

Q17 「リカバリー・フラッシュ・シングル」の保護対象としての領域を、デフラグする必要がありますか？

A17 「リカバリー・フラッシュ・シングル」をインストールする前には、デフラグを実行して、保護したい領域の最適化を行っておくことをお勧めします。「リカバリー・フラッシュ・シングル」のインストール時に、保護領域のデータと断片化状態がロックされるため、アプリケーションのインストール、アンインストールといった書き込みや削除を繰り返すことで生じた断片化は、「前の状態に戻る」の操作でインストール時点（基準レイヤー）に戻って修復できます。

※ デフラグとは、ハードディスク上の断片化されたファイルを連続した状態へ書き直し、ハードディスクのアクセス速度を向上させることをいいます。

※ 断片化とは、1つのファイルが HDD 上の複数の場所に分散され保存されている状態のことをいいます。アプリケーションのインストール、アンインストールといった書き込み、削除を繰り返すことにより生じます。

Q18 「リカバリー・フラッシュ・シングル」でPCを保護しているのに、チェックディスク(CHKDSK)が行われる場合があります。どうしてでしょうか。

A18 NT 以降で採用されている NTFS ファイル・システムは、システムが突然の障害や電源断、リセットなどにより、稼働途中で強制的に終了、再起動したりすると、ファイル・システムが壊れていないかなどを確認する必要があります。このため、OS は CHKDSK を実行し、ファイル・システムの整合性、一貫性を検査します。

Windows は、「リカバリー・フラッシュ・シングル」の保護に設定されていないボリューム（パーティション）や、保護モードが「自動修復」以外になっている保護領域にエラーがあった場合、CHKDSK を実行します。

この自動的なファイル・システムの検査をスキップさせたい場合は、下記のコマンドを実行してください。

Windows 2000/XP の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]を起動します。

C:\>CHKNTFS /X ボリューム [...]

/X ドライブを既定の起動時の検査から除外します。
除外するドライブは、このコマンドを実行するたびに指定する必要があります。

ボリューム 除外するドライブのドライブ文字（文字の後にはコロンを付ける）、マウントポイント、ボリューム名を指定します。

例：

C:\>CHKNTFS /X C: D:

/X ドライブを既定の起動時の検査から除外します。
除外するドライブは、このコマンドを実行するたびに指定する必要があります。

C:\>CHKNTFS /D

/D コンピュータを既定の動作に戻します。
起動時にすべてのドライブを検査し、エラーがあったドライブして CHKDSK を実行します。

リカバリー・フラッシュ・シングル Ver. 4.0

2010 年 5 月 27 日 第三版

日本語版マニュアル制作
発売元・製品サポート

株式会社グリーンフラッシュジャパン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-22-2 神宮レジデンス 1F
TEL 03-5775-2585 FAX 03-5775-2586
URL <http://www.gfj.co.jp>
E-mail service@gfj.co.jp